

平成2年度
羽村市予算案

不況の影響で企業からの税金45%減

羽村駅西口区画整理事業は少なくとも一時凍結すべき

日本共産党

2月6日、市議会むけの平成21年度予算案説明会が市役所でおこなわれました。

市民が払う「個人市民税」は前年度とほぼ同額の37億7,596万円を見込んでいますが、企業が払う「法人市民税」は世界的な金融危機と景気低迷の影響で、6億7844万円(45.2%)減の8億2,184万円におちこむとの見込みが示されました。

市政のあり方をきびしく見直すことが求められています。

13億円の基金(積みたて金)を取り崩し、しのぐ計画

市は税収減に対応するために、基金のうち約13億3千万円をとりくずし、市債発行(借金)6億8千万円をおこなって、ほぼ今年度並みの事業をおこなう計画をしめています。

基金の原資は税金であり、今回のような緊急時にこれを市民サービスのために活用することは当然です。しかし、来年度末には基金の残高は約40億6千万円となり、取り崩しでしのぐこ

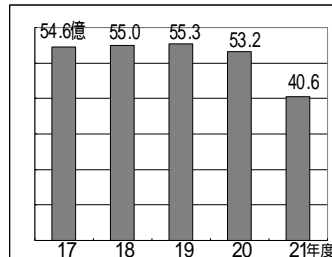
市税収入の推移

	H20年度	H21年度(見込み)
市税全体	113億 3,805万	106億 5,416万
(うち個人市民税)	37億 7,566万	37億 7,596万
(うち法人市民税)	15億 0,027万	8億 2,184万

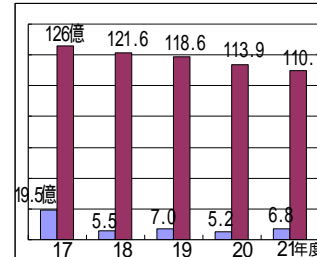
とも限界があります。

また市債には当然利子が発生しますから、その発行は将来の負担をふやすことにつながり、極力抑える必要があります。

基金残高の推移



市債の発行額・残高の推移



羽村駅西口区画整理事業は少なくとも一時凍結すべき

今回の不況は、「100年に1度のもの」と言われるように深刻で、回復までに一定の期間がかかると言われていています。税収のおちこみも、法人市民税につづき、今後は個人市民税にもおよぶことが予想されます。今こそ、市民にとって不要・不急の事業がないか、考え直すよい機会ではないでしょうか。

特に、羽村駅西口区画整理事業については、本来、計画を抜本的に見直すべきだと考えますが、少なくとも一定期間の事業凍結が必要ではないでしょうか。

21年度羽村駅西口区画整理事業への予算案

一般会計から(1.16億) + 基金から(1.98億) + 借金(1.4億円) + その他 = 4.7億円の税金投入

多くの市民の反対・疑問の声があるにもかかわらず、来年度予算案では、約2億円の基金の取り崩し、1億4千万円の借金をふくめ、約4億7千万円をこの事業に使う計画となっています。

市は、こうした巨費を投じてこの事業を進めていくことが本当に市民にとって良いことなのかどうか、立ち止まって良く考え直し、まず、子育て支援や介護・福祉など、市民の暮らしを守る仕事に予算をしっかりと確保することが必要ではないでしょうか。

すごいぞ シルバーパワー

10日、羽村駅前「後期高齢者医療制度を廃止させよう」「年金を安心できるものに」との宣伝・署名活動がとりくまれました。主催は後

期高齢者医療制度廃止西多摩連絡会と西多摩年金者組合。

のぼり旗を連ね、マイクで「お年寄りをそまつにする制度はおかしい」との力強い訴えに、お年よりから若い人まで多くの市民が足を止め、署名に応じていました。

ある女性は「私も高齢の母の面倒を見ているけれど、この医療制度はおかしいよね、といつも話しています」と、署名に記入しながら話し込んでいました。

1時間で約100筆の署名が寄せられました。

